

平成 29 年度
学会等開催助成報告

第34回シクロデキストリンシンポジウム

製剤学講座 小川 法子

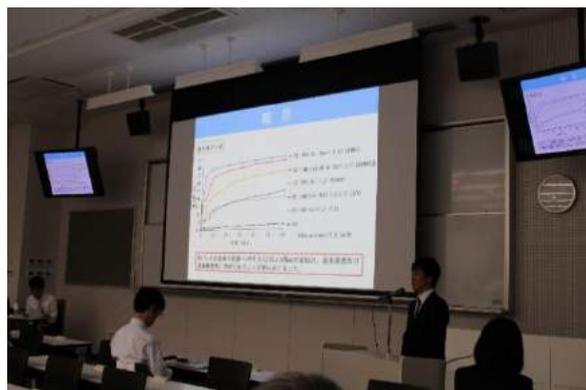
平成29年8月31日(木)、9月1日(金)の両日に、愛知学院大学薬学部(楠元キャンパス)にて、シクロデキストリン学会主催「第34回シクロデキストリンシンポジウム」を開催致しました。本シンポジウムは、愛知学院大学薬学部製剤学講座の山本浩充教授をはじめとする顧問6名と、製剤学講座の小川法子講師、高橋知里助教、臨床薬物動態学講座の堺陽子助教をはじめとする実行委員14名から構成する実行委員会にて企画・運営し、小川法子講師が事務局を務めました。



シクロデキストリンは環状糖類で、水溶液中で空洞内に疎水性物質を取り込んで(包接し)、包接複合体を形成することが知られています。この性質より、シクロデキストリン類は水に溶けにくい化合物の可溶化や安定化、持続性向上等の機能を有し、医薬品分野においても広く用いられています。シクロデキストリンシンポジウムは、シクロデキストリン学会が年に一度開催するシンポジウムであり、日本国内の医薬理工農などの幅広い分野における研究者が一堂に会し、シクロデキストリンの基礎・応用研究について、成果の発表ならびに討論を行っているものです。

今回の第34回シクロデキストリンシンポジウムは、初の名古屋開催であり、大学、企業関係者を含め、総勢223名の参加を頂戴しました。本シンポジウムでは、各種受賞講演、特別講演、特別セッション、企業展示に加え、口頭発表およびポスター発表が行われました。

初日には、午前中に4201講義室にて、学生による発表を中心とした10演題の一般口頭発表と関連学会紹介を行いました。昼食を挟んで57演題のポスター発表が薬学部カフェテリア・学生ホールにて行われ、活発な討論がなされました。



つづいて特別講演として、110周年記念講堂にて加納航治先生(同志社大学名誉教授)より「超分子ヘムタンパク質モデル」と題して、シクロデキストリン誘導体とアニオン性ポルフィリンとの相互作用を利用した超分子ヘムタンパク質モデルの構築についてご講演をいただきました。

その後に開催された総会にて、シクロデキストリン学会 学会賞および奨励賞の授賞式が執り行われました。学会賞を受賞された有馬英俊先生(熊本大学)からは、「シクロデキストリンを基盤分子とする統合型ドラッグデリバリーシステムの構築と医薬品原薬への応用」と題した講演をいただき、

同じく学会賞を受賞された池田宰先生（宇都宮大学）からは、「シクロデキストリンによるグラム陰性細菌の Quorum Sensing 阻害効果」と題した講演をいただきました。また、奨励賞を受賞された加藤和明先生（東京大学）からは、「シクロデキストリンを基盤としたポリロタキサン材料の開発」と題した講演をいただきました。

初日の講演終了後に、4号館1階のカフェテリアにて160名以上の参加者を迎えて懇親会を開催致しました。



二日目の午前には、3演題の一般口頭発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。つづいて、特別セッション「ライソゾーム病治療薬としてのシクロデキストリンの可能性」にて、熊本大学の石塚洋一先生、熊本大学の前田有紀先生、そして東京医科歯科大学の田村篤志先生にご講演いただきました。ライソゾーム病とは、ライソゾーム酵素の先天的な欠損や変異により発症する難治性疾患であり、現在有効な治療薬はありません。近年、シクロデキストリン誘導体の一種であるヒドロキシプロピル-β-シクロデキストリンの人的使用が開始され、治療効果が得られている症例のご紹介などがありました。



次いで、特別講演として、Gerald Rimbach 先生（キール大学・ドイツ）より「Potential health benefits of cyclodextrin encapsulated nutraceuticals」と題して、各種機能性健康食品成分とγ-シクロデキストリンの包接複合体を健康補助食品としての利用することの有用性について講演をいただきました。



昼食を挟んで29演題のポスター発表が行われ、活発な討論がなされました。つづいて一般口演9演題が行われ、最後まで白熱した議論がなされました。最後に、ポスター賞と学生の口頭発表を対象とした優秀発表者賞の授賞式を執り行い、盛会のうちに終了致しました。



最後になりましたが、2日間に渡り、活発な意見交換ができ、盛会のうちに終了することができたのは、ひとえに愛知学院大学薬学会のご支援とご協力のお陰です。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

（文責・小川法子）